



開催日時：平成27年9月12日（土）13時30分～15時00分

開催場所：霞ヶ浦環境科学センター

講師：茨城県農業総合センター 堀井 学 先生， 假屋 哲朗 先生，
池羽 智子 先生， 飯村 強 先生



参加者：41名

農業総合センターより4名の先生をお招きしました。農業総合センターは、普段、農業に関する試験や研究を行ったり、新品種・新技術の普及推進を行ったりしている茨城県の施設です。

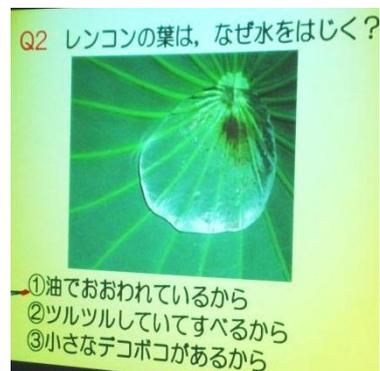
ラボでは姿掘りのレンコンを用意しましたが、これは、土浦市田村町のレンコン農家の協力によって可能になりました。ありがとうございました。

日本一 レンコン産地！

第3回ラボの題材は、レンコン。茨城県は、レンコンの生産量日本一です。日本のレンコンの約半分（約3万トン）もの量が、霞ヶ浦の周辺で作られています。

今回は観察と実験を通してそのレンコンの秘密に迫ります。

「レンコンの葉は、なぜ水をはじくのでしょうか？」假屋先生からクイズの出題です。葉の表面のしくみに、その秘密の答えがあるようです。



レンコン その全体像は？

レンコンは、ハスの地下茎が、太く大きくなったものです。霞ヶ浦周辺でも食用のために栽培されています。1株のハスの姿って、どうなっているのでしょうか。まるまる1株のハスの姿、レンコンの姿掘りとはばれるものを用意しました。

右の写真は、たった1株のレンコンです。

この辺りに小さく種レンコンが！

おどろきの広さですね。

種レンコンを植えたのが4月。夏の間グングン成長しました。

収穫のころ、よく育った株では、重量にして、最初の種レンコンの100倍にも大きくなるそうです。

伸びた地下茎の先端に、大きくふくらんだレンコンができる。



レンコンの姿掘り（ブルーシート2枚分）

※ ここまできれいに掘り出すには、2時間以上の時間がかかります。

レンコンで遊ぶ！

「茎にも葉にもレンコンと同じように穴が開いているけど、ここに水を通すとどうなるかな？」
 假屋先生が、レンコンの葉を水道ホースにつなぎます。蛇口をひねるとしておれていた葉が開き、葉の縁から水滴が落ち始めました。



その後は参加のみさなで葉や茎や根を自由に観察・実験しました。
 葉(葉柄)を口にくわえてストローのように使ってみたり、レンコンを色々な場所で、折ったり切ったりしてみました。



レンコンのかたさや栄養

最後は、研修室で節ごとにレンコンのかたさや糖度・ビタミンCの量を調べました。

糖度の測定のためには、レンコンを細かく切つて力を加えてしぼり出す必要があります。親子で協力して測定ができました。

「かたさも甘さも節によって違うのです。」と池羽先生。向いている料理も違ってきそうです。



お土産にいただいたレンコンの種、バケツで育てることができるようです。大きなレンコンができるといいですね。

——— ご参加のみなさん、お疲れ様でした。

